

医学系研究科 看護学専攻 博士後期課程 カリキュラムマップ

	1年		2年		3年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共通科目	必修科目 2科目(4単位)					
4単位	看護学研究方法論(2単位)	保健医療統計論(2単位)				
専門科目	選択科目 2科目(4単位)					
4単位	看護職生涯教育学特論(2単位) 高度実践基礎看護学特論(2単位) 成熟期看護学特論(2単位) 母子看護学特論(2単位) 精神・ストレス健康科学特論(2単位) 地域看護学特論(2単位)	看護職生涯教育学演習(2単位) 高度実践基礎看護学演習(2単位) 成熟期看護学演習(2単位) 母子看護学演習(2単位) 精神・ストレス健康科学演習(2単位) 地域看護学演習(2単位)				
特別研究	後期看護学特別研究(8単位)					
8単位		↑ 研究計画発表		↑ 研究経過発表	↑ 予備審査	↑ 学位審査
合計						
16単位						

		到達目標	DP1		DP2		DP3		
			知識	実践力	知識	実践力	知識	実践力	
共通科目	看護学研究方法論	1. 概念分析アプローチ、研究過程を理解できる。 2. 研究倫理の意義を理解し、質の高い研究へとつなげる方法を検討できる。 3. マーケティング・リサーチを理解し、研究の意義、研究の進め方を検討できる。 4. 研究を戦略的に実施していくための方略(グラント獲得、研究計画立案、研究論文の書き方、プレゼンテーションの方法、英語論文の書き方)について理解する。	◎	○	◎		◎		
	保健医療統計論	1. 課題の枠組みに従って統計的方法を用いた研究計画を提示できる。 2. 研究計画に基づきデータの収集ができる。 3. 収集したデータの統計解析及び結果の解釈が的確にできる。 4. 研究結果をレポートとしてまとめ、発表することができる。	◎		◎				
専門科目	看護職生涯教育学特論	1. 看護教育に関する看護教育制度や社会的状況等の変化を概観する。 2. 看護教育に関する国内外の先行研究から研究の動向や課題を分析し、研究すべき課題における重要な懸念を抽出できる。 3. 取り組むべき緊急課題の看護にける研究の意義を明らかにする。	◎	○	○		○		
	看護職生涯教育学演習	1. 設定した研究テーマの研究目的、意義を医理的に説明できる。 2. 予備研究の計画を立案し、研究方法の妥当性を検証できる。	◎	◎	○	○	○	○	
	高度実践基礎看護学特論	1. 国内外の先行研究に基づき俯瞰的視野による学術的知見を踏まえ、自身の関心領域の研究動向を概観できる。 2. 研究枠組みに用いる理論、概念に関する研究論文をレビューし、探求した内容を俯瞰的視野で説明できる。	◎	○			○		
	高度実践基礎看護学演習	高度実践基礎看護学特論で探求した内容に関して、研究計画書の作成から研究成果の普及に至るまでの一貫して行える。	○	◎				○	
	成熟期看護学特論	1. 成熟期にある人々の治療に関わる体験やセルフマネジメント力の向上にむけた対処を理解するとともに、緩和ケアの見地に立つて看護のあり方を探究する。 2. 他の学問分野の専門家の情報をもとに、取り組むべき研究課題と、その意義を明確化する。 3. 研究課題から成熟期看護ケア構築につながる方法についてエビデンスに基づき提言する。	◎	○	○	○	○	○	
	成熟期看護学演習	1. 研究課題に関する援助法を実施するために必要な演習計画を立てることができる。 2. 研究フィールドの開拓、演習の実施に至るまでのフィールド、教員や他の学問分野の専門家との調整など、研究を遂行する上で研究者に求められる調整能力を習得する。 3. 自身の関心のある研究課題をアセスメント、評価するために必要な指標を選択することができる。適切な指標が存在しない場合は適用可能なアイテムリストを作成することができる。 4. 演習計画に基づき援助法を精緻化し、研究計画書を作成する。	◎	○	○	◎	○	○	
	母子看護学特論	1. 女性のライフステージにおける健康課題と母子および家族の健康問題とその支援について理解を深める。 2. 母子看護領域における研究課題の発見と、研究課題へ取り組む基礎的能力を養う。 3. 俯瞰的視野による学術的知見を踏まえ、取り組むべき研究課題を分析できる。	◎		○		○		
	母子看護学演習	1. 他領域との融合や新しい発想を得ることにより、母子保健、小児保健に関する取り組むべき研究課題や研究方法を検討し、母子生涯健康支援のための研究過程を進めることができる。 2. 母子保健、小児保健に関する看護実践に基づいた研究推進能力を高めることができる。	○	◎	○	○		○	
	精神・ストレス健康科学特論	1. ストレスで生じる精神神経免疫学的変化を理解できる。 2. 精神疾患の発症・経過・予後におけるストレスの影響と看護実践との関わりを理解できる。 3. ストレス緩和ケアの効果を科学的に検討する方法を理解できる。	◎		◎		◎		
精神・ストレス健康科学演習	1. 精神疾患に対するストレス緩和ケアにおいて取り組むべき研究課題を解決するための枠組みについて、多面的かつ俯瞰的な視野で検討できる。 2. 精神神経免疫学の観点を含め、精神疾患の発症、経過、予後とストレスの関係に注目し、ストレス緩和ケアにおいて実施可能な研究方法を具体的に明示できる。 3. 看護実践に基づいたストレス緩和ケアの研究推進能力を高めることができる。	○	◎	○	◎	○	◎		

		到達目標	DP1		DP2		DP3	
			知識	実践力	知識	実践力	知識	実践力
地域看護学特論		1. 健康問題と住民ニーズ、健康に大きな影響を与える地域の要因、関連する施策・制度・サポート体制について科学的根拠をもとに検討できる。 2. 疾病の早期発見と一次予防に向けた健康管理と協働体制、療養者と家族・地域への支援、これらシステムの開発や再構築に関して検討できる。 3. 学術的知見を踏まえ、取り組むべき研究課題の意義や背景を明確化できる。	◎		◎		○	
地域看護学演習		1. 地域における取り組むべき研究課題を解決するための枠組みについて、多面的かつ俯瞰的な視野により検討することができる。 2. 地域看護・保健学の関連フィールドにおいて実施可能な研究方法を具体的に明示できる。 3. 看護実践に基づいた研究推進能力を高めることができる。	○	◎	○	◎	○	○
特別研究	後期看護学特別研究	研究テーマを明確化し、そのテーマに応じた研究計画を考え、研究活動の成果を論文化し、論文作成する。	○	◎	○	○	○	◎

看護学先行博士後期課程のディプロマ・ポリシー

- DP1 俯瞰的視野により看護学的現象を捉えることができ、顕在および潜在する地域社会のニーズを探知した上で研究的視座による探究ができる。
DP2 地域社会の課題を解決するための新しい概念や方策を学際的協働によって見出し、実行していくことができる。
DP3 教育・研究や看護実践に関してオピニオンリーダーとしての責任を果たすことができる。